

バラエティに富んだ 真庭の古道



つながるいすもかいどう～くせ～かつやま～みかも～
つながる出雲街道～久世～勝山～美甘～

令和元年度認定 / 岡山県真庭市 / 出雲街道勝山宿の会

後鳥羽上皇、後醍醐天皇、配流の道、のち参勤交代の道となる。

出雲街道は、播磨国姫路を始点に出雲国松江に至る街道で、古代より出雲大社と大和朝廷を結び、人、物、文化を運ぶ重要な役目を果たしてきました。

真庭市久世は、岡山県北西部(旧出雲街道)美作追分の西に位置し、追分には今も元禄・文久年間に立てられた道標がありま

す。出雲詣の旅人もこの道標を頼りに出雲大社を目指しました。国道から右折して「大山みち」に入ると寂しい土道になりますが、ここから鯰越峠までは最も古い出雲街道と言われ正慶元(1332)年、後醍醐天皇が倒幕に失敗し隠岐に配流された折りにはこの峠(峠)を通られたと伝えられています。

街
道沿いに
栄えた宿場町の
風情は今も。



「上方街道絵図」(江戸後期抜粋 米子市立山陰歴史館所蔵)

久世郷は、慶長9年(1604年)江戸幕府により街道の整備が進められ久世宿となりました。東西に延びる出雲街道と大山道の中継点で、久世を流れる旭川には水駅(渡し場)が置かれ高瀬舟が通う交通の要として栄えました。街道の西には久世郷の総氏神として宝亀元年(770年)に創建された攘疫除災の信仰がある朝日神社が落ち着いた佇まいをみせます。参道からは出雲街道が見渡せ、旅行人は遙か神の国に思いを馳せたかもしれません。交通経済両面で重要な拠点であった勝山宿は、人、たたら鉄材、米を積んだ高瀬舟が盛んに往来し、発展を遂げました。その頃の町並みは保存され今も往時を偲ぶことができます。勝山から旭川の支流である新庄川沿いに上がると「神代の四季桜」が見えます。後醍醐天皇が隠岐に配流の道中、この地で休息し

た折りに「春も咲け 夏秋も咲け冬も咲け 四季の桜と名を授けおく」と詠まれて以来、1年に4回花が楽しめるといわれる桜です。後醍醐天皇は自らの運命を花に例えたのかもしれません。街道は新庄川の水が創る美甘渓谷に入り眼下に広がりをみせます。難所ではありましたが、渓谷の美しさは人の心を和めさせます。美甘は古くから砂鉄が多く産出され産業が発達、賑わいのある宿場で、近くに弘仁年間(810~823年)空海の開基とされる古刹、宇南寺があります。天皇が隠岐に配流のとき行在所となり、本堂で天下太平を祈願されたことから、太平堂と呼ばれています。旅人もまた道々の平穏を祈りながら出雲へと向かいます。先の道は新庄村を経て、この街道の最大難所四十曲峠へと続きます。

岡山
● つながる出雲街道～久世～勝山～美甘～

街道に息づく風景や史跡を後世に残したい



「出雲街道勝山宿の会」の
進藤さん、二司さん、石川さん、各務さん(後列)
青木さん、重藤さん、宮田さん(前列)

「出雲街道勝山宿の会」は、出雲街道の歴史遺産を後世に残し、ふるさとの魅力を再発見しようと、真庭市の有志が集まり平成23年に結成しました。以降、ガイドマップの作成や瓦版の発行、道しるべ石の建立など、地元の行政や企業のみなさまのご支援をいただきながら、様々な活動に取り組んできました。これからは、高齢に鞭打って真庭市を飛び出し、周辺の地域活動団体とも協力して、DVD映像化などの活動を広げ、「つながる出雲街道」の実現に向け、頑張りたいと思っています。

